

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 1 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520628

研究課題名 (和文) 第二次世界大戦中の連合国教育省会議に関する歴史学的検討

研究課題名 (英文) A historical study of the Allied Education Conference during World War II

研究代表者

廣部 泉 (HIROBE IZUMI)

明治大学・政治経済学部・教授

研究者番号：80272475

研究分野：西洋史

科研費の分科・細目：文学・西洋史

キーワード：西洋史

1. 研究計画の概要

第二次世界大戦中にロンドンで開催された連合国教育相会議について英国国立公文書館の関係資料、並びに同会議の後継機関である国際連合教育科学文化機関の本部所蔵の関係資料、並びに米国における関係資料の収集・分析を行うことで、第二次世界大戦の最中に、戦況とは直接関係のない教育という分野について議論するために集った参加各国の思惑を分析すると共に、それらが戦況の変化とあいまって、どのように戦後の機関の設立に影響を与えていくのかを明らかにする。

2. 研究の進捗状況

本プロジェクトの研究対象である連合国教育相会議に至る前段階である国際連盟知的協力国際委員会や、本会議の有力参加者である戦時下のロンドンにおける各国の亡命政府についての必要な歴史的理解を与えてくれる二次資料の通読を続けると共に、必要な一次資料の収集にあたった。中でも重要なものが、連合国教育相会議の根本資料となる、開催地のイギリス側が作成し、ロンドンに残る資料と、後継機関のユネスコの本部であるパリに存在する資料である。一部重複し、また、錯綜する膨大な資料群である。また、それぞれ、両国の思惑を反映した資料であり、似通った資料であっても、微妙に細部がことなっている。以前であれば複写量は限られ、現地において読める範囲で検討することが多かったが、現在は、データベースの拡充による資料探査の可能性の拡大と、デジタルカメラの使用解禁によって一度に莫大な資料収集が可能となった。そのため本プロジェクトで収集した資料も優に一万頁を越す量になっている。現在は、そうした英国国立公文

書館、ユネスコ文書室、米国諸大学の図書館などで収集した資料の突き合わせ、並びに分析を急いでいるところである。戦後国際秩序形成の過程において、アメリカが政治領域で主導権を握っていく中で、それに追随するイギリス、そして、戦前保っていた国際政治における影響力の減退をなんとか食い止めるため、どこかで主導権を握れる分野を持ちたいと考えるフランス。そのせめぎ合いがそれらの資料から浮かび上がる。そして、なんとか英米に知的協力分野で主導権を握ることを英米に黙認させるに至ったという流れであるとの暫定的結論に至っている。

3. 現在までの達成度

③ やや遅れている

(理由)

英国国立公文書館のデータベースの急激な拡充と文書館でのデジタルカメラ使用許可の広がりによって、当初の計画に比べて格段に調査の成果が上がり、その処理に時間を要しているため。

4. 今後の研究の推進方策

収集したデータすべての整理・分析をするのではなく、本プロジェクトの目的に適ったより重要な資料の分析を優先して進めることで年度内に当初の計画目標の達成に努める。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

① 廣部泉「国際連盟知的協力国際委員会

の委員選考過程と新渡戸稲造」『明治
大学教養論集』第 441 号 39—53 頁
2009 年、査読無

- ② 廣部泉「来日アメリカ人宣教師の越境と
日米関係」『同志社アメリカ研究』第 45
号 25—38 頁、2009 年、査読有

〔学会発表〕(計 1 件)

- ① 廣部泉「日米間キリスト教越境伝導ネッ
トワークの展開」アメリカ学会、2008 年
6 月 1 日、同志社大学